

研究室訪問

のすゝめ

研究室訪問は、大学院進学を考えているならしておくに越したことはありません。進学するつもりがなくても、興味のある分野について話を聞きに行くのはためになります。この春は研究室を訪れて、学問的興味を追求してみたいはいかがでしょうか。

教授の方への意識調査

学生の研究室訪問、どう思いますか？



学生が研究室を訪ねてくることについて、教授の方々はどう思っておられるのか。31人の教授の方々に伺ってみました。回答にご協力いただいた教授の方々、本当にありがとうございました。

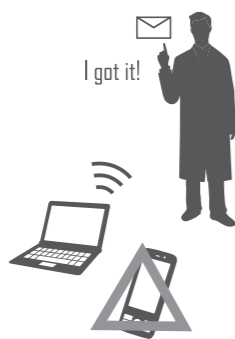
アポを取る

訪問の前には面会の約束（アポ）を取る必要があります。ここではアポ取りの際の注意点を紹介します。

アポ取りは学生用メールで

授業を受けている先生には口頭でアポを取れます。しかし、**会ったことのない先生にはメールでアポを取る**ことになります。

このときは、**身分のわかる学生用メールを使う**といいでしょう。携帯電話のメールを使うのは失礼にあたる場合があります。また、PCメールであってもドメインによっては受信拒否されます。



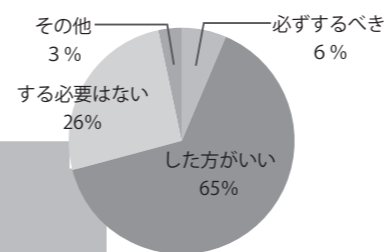
メールの内容は詳しく

メールには名前と所属、回生を必ず書きましょう。そして、**訪問を希望する理由もなるべく明確に伝えましょう**。自分が何を知りたいのか明確でなければ先生の方も答えようがありません。

また、先生も決して暇ではなく、仕事の合間に応対してくれます。日程を調整する際は、まず**相手の都合のいい日程を聞く**ようにしましょう。

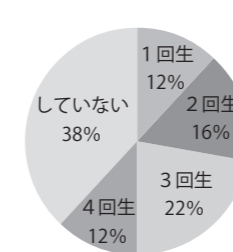


Q.1 学部1・2回生に研究室訪問は必要でしょうか？



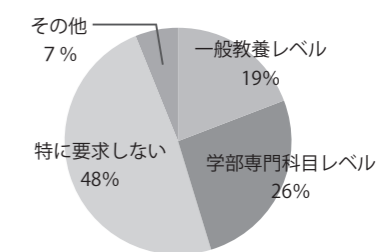
した方がいいという意見が半数以上を占める一方で、1・2回生のうちは焦らずに基礎勉強をするべきという意見も見られました。その他には、**将来の目標次第**という意見もありました。

Q.2 何回生の時に研究室を訪問しましたか？



全体の6割の方々が研究室を訪問したことがあると回答しました。しかし、研究室を訪問した学年は人によってそれぞれで、**一概にどの学年の時にいく人が多いとは言えません**。

Q.3 訪れる学生にどの程度の知識を求めますか？



特に知識は必要ないという意見が多く、学生にそこまで深い知識を要求する方は見られませんでした。その他にも、**自分の学年に合った知識を付けてきてくれればいい**という意見もありました。

実際に訪問する

いざ訪問するとなったとき、気をつけるべき点があります。訪問の機会を生かすためにも知っておきましょう。

服装はカジュアルでOK

訪問時に意外と不安になるのが服装。**度が過ぎて派手な服装はあまりいい印象を与えません**。かといってスーツなどのフォーマルな服装をする必要はありません。

服装は普段着で大丈夫です。先生の方もカジュアルな服装で応対してくれることが多いようです。カジュアルな服装であればリラックスして話を進めることができます。



わからないことは質問すべし

まずは研究のテーマ、応用、面白さなど、その先生の研究活動についてしっかり聞きましょう。**訪問の第一目的は研究について知ること**です。

また、話の中でわからないことがあったら遠慮せずに質問するのがいいでしょう。変に知ったかぶりするよりは、**素直に質問した方が話も弾みます**。訪問した後は**その日のうちにお礼のメールを送りましょう**。



Q.4 訪問時に準備してきてほしいことは何ですか？

- ・事前にHPを見て、研究に興味を持って来てほしい
- ・何を聞きたいのかを自分なりに明確にすること
- ・社会人としてのマナーは身に付けておいてほしい

やはりHPは見てきてほしいという意見が多く見られました。また、質問内容や訪問の目的を明確にしてきてほしいという意見も多かった。一方で、準備は必要ないという方も少数いました。

Q.5 学生の研究室訪問についてどう思いますか？

- ・訪問の目的が明確なら大変有意義だと思う
- ・1つだけでなく幅広い分野の研究室に行ってみるべき
- ・研究室訪問は別に特別なことではない

訪問してくれる学生は歓迎するという意見が多かったです。しかし、必ずしも研究室訪問をする必要はないという意見や、訪問したことで視野が凝り固まってしまうことを懸念する声もありました。

次のページからは研究室訪問体験記！

実際に研究室を訪問した学生はどんな刺激を受けてきたのか。2人の京大生にご協力いただいた生の声を聞いてみました。



はみだし
すてーじ

大学院生活（おそらく5年）であと何回はみだせるだろうか……。⇒新入生の皆さん、ここは「はみだしすてーじ」として読者の投稿に編集部員が返すコーナーです。（理・4 pulsar）
（ちなみに、らいふすてーじは年9回発行なのではみだせるのはあと45回ですね；編）

はみだし
すてーじ

懸賞が当たらないのによく投稿したものが掲載される……。ということは俺は面白いことを書いているということなのか。（理・2 新はしも一）
⇒その年で掲載回数が最多だった人には景品がありますよ！ 詳細はらいふすてーじのHPで！（以上、露骨な宣伝でした；編）

理学部新3回生

杉山賢子 さん

菌類全般に興味があるという杉山さん。2回生の時には金曜日を全休にして、滋賀にある研究室に通っていたそうです。通うようになった経緯を、菌類への熱意を交えて伺いました。



—初めて研究室を訪問したのはいつですか？

一番初めに訪問したのは農学部の研究室でした。きのこの図鑑の編集者一覧のところで名前を見かけたのが、行ってみようと思ったきっかけです。それでメールでアポを取って何回か訪問しました。1回生の4月から5月にかけてでした。

—ということは、2回生の時から通っているのはまた別の研究室ですか？

通っているのは滋賀にある理学部の研究室です。下手したら往復で4時間もかかるので気軽には行きませんね。



—そんなに遠い研究室にどうして通うようになったのでしょうか？

理学部では菌類を研究している人がその研究室の先生しかいなかったんです。どこかで親しくなれたらと思っていたら、その先生が授業中に春休み中の実験補助のバイトを募集していたので、いい機会だと思って応募して。それで、バイト中に4月から来ていいよって言われたので2回生から通うようになりました。

—金曜日を全休にして通うのはかなりの覚悟がいると思うのですが……。

もともと菌類が好きでしたが、バイト中にいろいろと話を聞いてますます面白いと思ったので。それに、いずれ4回生になったら行くつもりだったので、今から研究室に通っていいと言われたら行きたくないじゃないですか。

—なるほど。ところで、訪問の際にどんなことを下調べしましたか？

実はほとんど下調べはしませんでした。私の場合、その先生の授業を1年間受けていてある程度の情報はあったんです。

—そういう点では、授業を受けておくと有利ですね。

もちろん通い始めてからは自分で本を読んだりしてますけどね。

—研究室に行ってみてためになったと思うことはありますか？

勉強しなきゃならない分野がはっきりしたことです。自分が研究したいのがどの分野に入るのかわからなかったんです。話を聞いているうちに、菌類生態学に入るんだと思って勉強し始めました。あと院生の方のおかげで、知識はだいぶ身に付いたかなって思ってます(笑)。

—今後はどうしていきたいですか？

今、卒論のテーマも先生と話し合っているんですけど、今年か来年には研究が始められればいいですね。とりえず博士課程まで行こうかなとは思っています。どうなるかはわかりませんが、将来的には研究者になりたいですね。

—研究室を訪問してみたいと思ってる京大生に向けてひとことどうぞ。

私は行き当たりばったりでも大丈夫だったので、しっかり準備して行けば大丈夫だと思います。研究室だと院生の方がおすすめの本を教えてください、その分野に必要な勉強を指導してくれたりします。それに、会話のレベルも高いので、勉強のモチベーションも高まります。興味がある分野の研究室があるなら訪問してみたらいいと思います。

—ありがとうございました

総合人間学部新3回生

上村太一 さん

医学部人間健康科学科から転学部し、将来的には聴覚について研究したいという上村さん。興味が固まるまでの経緯を、研究室訪問の体験を交えて伺いました。

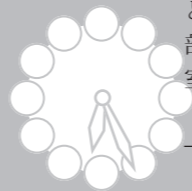


—初めて研究室を訪問したのはいつですか？

1回生の5月です。細胞生理学の授業中に先生が糖尿病の検査を無料でさせてあげるとおっしゃっていたんです。それで面白そうだなと思って、友人と2人で飛び入りで訪問したのが最初でした。あとは総合人間学部で3つ、文学部と工学部で1つずつ、あと他大の工学部の研究室にも訪問しましたね。

—幅広いんですね。どうしていろいろな研究室に行ったんでしょうか？

認知という分野が好きで、脳科学・視



How can I listen to sounds?



覚科学・音響心理学のどれかをできればなと思っていました。どれを勉強したいのか見極めるためにいろんな研究室に行きました。どの先生もフレンドリーに接してくれたので行きやすかったです。どれも面白くて迷ったんですが、結局自分は聴覚に興味があると気がきました。

—それでは、今後は聴覚について研究している研究室に進む予定ですか？

それが、総合人間学部には音響心理学の研究室がなかったんです。だから情報学研究科に進学して、人の声を聞き分けるロボットの研究をしたいと思っています。そうすれば音響心理学の勉強もしつかりできて、音響関係の会社にも就職しやすいかなと考えています。

—多くの研究室を訪問されていますが、どんなことを下調べしましたか？

面識がない先生にメールでアポを取るときは、まず自分の名前・学部や訪問したい理由などの情報を相手に伝えました。あと当然ですが、訪問先の研究についても調べて行きました。質問が畑違いで会話が全然盛り上がらないこともありましたが、なるべく先生の専攻に沿った質問を用意するのが大事ですね。飛び入りのときは何も準備してないです。

—訪問してみてよかったと思うことは何ですか？

院生、特に博士課程の方と話す機会が得られたことですね。研究者志望の人としては、院生生活の実態を聞いてみたいじゃないですか(笑)。せっかくの機会なので、就職のことや研究室の雰囲気など結構踏み込んで聞きましたね。

—先生や院生と話をして、実態を掘り下げてくると。

やっぱり実際に研究室に行かないとわからないことはありますよ。研究内容も研究室で話を聞いた方がよく理解できます。いろいろな分野の専門的な研究内容について知ったうえで、自分が最もやりたい分野を選ぶことができるのが研究室訪問のメリットですね。

—研究室を訪問してみたいと思ってる京大生に向けてひとことどうぞ。

研究室を訪問するときのポイントは、狙った獲物は逃がさないことだと思います。面白い授業に出会ったときに、授業が終わったらすぐに先生にアポを取りに行くのがいいです。そうすると、約束を取りつけた以上、行くしかなくなります(笑)。最初が一番行きづらいと思うので、まずは友達と一緒に訪問するのがおすすめです。研究室を訪れて将来の目標が明確になると、今の勉強も価値あるものに見えてくると思いますよ。

—ありがとうございました